

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		じぶんみらいココイロ		公表日		2026年5月15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		送迎や会議等職員数が薄くなる場合は、他事業所の職員に支援依頼をしています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1		音の反響が大聞く感じる。段ボール等音を吸収する資材を置くなど工夫しているが、置く場所や資材の量などを再度見直します。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日、子ども達も一緒に清掃活動を行っています。机や椅子などはおやつや食事の度に消毒を行い、食後は各児童机を拭くことが習慣化されています。。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		相談室や会議室を使用し、クールダウンや個別学習に必要な環境を整えています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		支援に繋がる業務改善については、日々のミーティング等で意見を出し合い改善に取り組んでいます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者の声を真摯に受け止め、職員間で周知し、改善に努めています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		日頃から、職員が意見をしやすい環境を心掛けています。日頃から思ったことを発言してもらうことで、全職員で考え、より良い業務が出来るようにしています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	第三者評価は行ってないが、定期的に第三者委員に運営を見てもらってアドバイスをもらっています。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			職員の資質向上のため、今年より研修案を作成し、研修を増やしていく予定です。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		利用児童の特性や能力に応じたプログラムの立案を随時行っています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		アセスメントの後に、サービス等利用計画や保護者、本人のニーズを分析し、個別支援計画を作成しています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		支援計画立案の際に各職員で内容を検討した上で行っています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		個別支援計画を作成後は発表するので、職員間で共有でき、計画に沿った統一した支援を心掛けています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		本人支援はもちろん、本人を取り巻く環境と出来るだけ連携を持ち、家族支援や進学、就労等、本人や保護者の意向に沿った支援を心掛けています。	不登校等の支援が必要な場合、学校含めた地域支援との連携を強化する必要があると思っています。また、心理的な面を理解する必要もあるため、児童発達支援センターの専門的な助言も積極的に受けていきます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		活動プログラムは個人で立案を行うが、全員で内容を確認し、意見を元に修正をかけていきます。	繰り返し必要な学習プログラムのカリキュラム化を検討しています。職員全員が統一した方法で子ども達へ支援できるようにしていきたいです。	

支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		ミーティングでプログラムの振り返りを行い、反省点を改善しながら、新しいプログラムにも挑戦しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		その児童の特性に合わせて、集団支援、個別支援を組み合わせています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	当日の活動の流れの確認と共に、当日の受入れ児童の特性などによる個別支援も確認し、チームで連携した支援が出来るようにしています。	長期休暇等朝から児童の受入れがある場合等、出来ている時とできていない時があるのが現状です。事前打ち合わせが難しい場合は、職員間で声掛けを行い、連携した支援が出来るよう心がけております。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	打ち合わせが難しい場合にも、当日に振り返り、課題面や改善点を共有するようにしています。検討すべき内容については、各自持ち帰り翌日、ミーティングを持つこともあります。	保護者の相談対応や児童支援が長引いた場合に振り返りが難しい場合があります。当日できなかつた場合には翌日振り返り、気づいた点を報告し合います。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			救急対応していただいている協力医療機関（豊見城中央病院）は契約時に説明しております。また、市町村のこども未来課、障害福祉課等と連携しております。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		送迎時の申し送りや、それが難しい場合は、必要な時に電話連絡、会議を持ち、学校と情報共有を心がけています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5			中高生が主な利用児童のため、就学前の機関とは関わることは少ないですが、同法人の児童発達支援センターと連携し必要な助言等を受けています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		学校卒業後の移行先との情報共有会議には積極的に参加し、本人に必要な支援、引継ぎ等を行っています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	1	・支援に関し、必要に応じて来所し具体的な支援方法の助言を受けています。 ・学校に行き渋りのある児童や、児童発達支援センターから移行してきた児童等に対する支援方法等、助言を受ける機会を設けています。また、前年度は、児童発達支援センターが行った、子どもの性教育についての研修にも参加しています。	・同法人内の児童発達支援センターであるため、常日頃からの連携が出来る取組を増やしていきたいと思っています。 ・不登校児童等の心理的な面も含め、心理士の助言を受けられるようにします。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		気になることがある場合、すぐに保護者へ連絡し、課題面等を情報共有した上で支援方法を考えています。また、保護者会も年に一度開催しています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		毎年親子会、保護者座談会も同時開催で、家族に対して講話を行っております。今年度は「就労選択支援制度」について講話を予定しております。	

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に説明を行っています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		保護者から要望があった場合はもちろん、事業所から必要と感じた場合も、出来るだけ早急に面談等を設け、課題解決を図っています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5		毎年親子会、保護者座談会も同時開催で、家族に対して講話を行っております。今年度は「就労選択支援制度」について講話を予定しております。	年に一度の親子会に際に、きょうだいも一緒に参加するご家族もいます。今後は、きょうだいの招待も積極的に行い、支援に繋がられるよう検討していきます。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		日頃の情報共有を大切にすることで、苦情なども出来るだけ早く対応できるよう心がけています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2	夏休みに行ったお化け屋敷や夏祭りでは、子どもの居場所に通う児童や児童発達支援センターの児童、地域の放課後等デイサービス等を招待し、みんなで楽しむことが出来ました。	事業所近隣の地域住民を招待する行事を行うことは難しいのが現状であるが、今後は行事内容を検討し、事業運営を図ってまいります。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			食物アレルギーのある児童はいません。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		保護者への周知に関しては実際に行った訓練や研修内容を広報やブログにて周知しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		小さなヒヤリハットも含め、事業所内で共有し事故防止を図っています。	起こった内容のみならず、ヒヤリハットに繋がる行動や活動なども確認し事故防止につなげていきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5			必要だと思われる児童がいた場合に、保護者に説明し連携して取り組んでいきます。